

医療 IT 業界の台所事情

新里 雅則

NEC 医療ソリューション事業部
m-niizato@ct.jp.nec.com



モノ：百花繚乱？

日本国内には、約 9,100 の病院と 96,000 の診療所がある。最近の話題は電子カルテである。一言で電子カルテといっても、医師 1 人のクリニックで使う電子カルテから、職員 2,000 人を超える大学病院の電子カルテシステムまで多くの種類と構成システムがある。お金にす

ると 100 万円程度から 50 億円を超えるほどの幅がある。

構成システムとしては、医師が紙のカルテに記載しているような患者主訴、診断所見、プロブレム等を扱う狭義の「電子カルテ」、看護師の患者ケアや診断を支援する「看護支援」、検査、投薬、画像撮影等の指示・管理をする「オーダエントリ」、患者さんの尿・血液等から検査値を得るための「検体検査」、処方や物流を支援する「薬剤・物品」、人体の透過や断層の撮影画像を管理する「画像検査」、会計計算を行う「医事会計」等がある。その他にも、案内表示板、ICU 支援、透析管理、予約管理... レア物では、小遣い管理システムなどというものまである。

上述のような電子カルテシステムを構成する数十種類のシステムを、餅は餅屋とばかりに多数の企業が競って開発し、その結果非常に多くのシステム製品ができてきている。

こうした製品同士を結合しようとする、各社各様に結合を考えているのでなかなか大変である。一応ネジ穴はあいっているが、ISO でも JIS でもないネジとネジ穴を結合するべく、ネジ穴を切り直したり、ネジはやめてボルトとナットに変更して繋ぐようなことが起こっている。近年ようやく規格化が進み、各社は標準のネジに合わせてネジ穴の切り直しをしているところである。

カネ：デフレの 2 乗？

医療はデフレ産業である。現在 32 兆円の国民医療費は、かなり手を尽くしても 20 年後には 69 兆円に膨れてしまうという試算のもと、包括支払制度やら何やらで医療費を抑えよ

うとする政策が継続されている。国民医療費の数値はインフレ（倍増）であるが、売上（診療）単価を限界まで絞られるデフレ産業である。

また IT もムーアの法則よろしく、性能、仕様はインフレ（倍増）なのに、売上単価は下がる一方のデフレ産業である。

この 2 者が合体した医療 IT 産業は、その市場自体は 1995 年度の約 1,850 億円から 2003 年度の 2,900 億円（保健医療福祉情報システム工業会統計より）へとインフレ（急成長）なのだが、個々の現場はデフレの 2 乗という状態である。まず医療（病院）側の IT 投資が厳しい。たとえば、10 年ほど前はオーダエントリと言われるシステムへの投資は、病院収入の 3% 以内と言われていたのが、現在では 2~1% 以内と言われるほど投資抑制が著しい。また IT 側も、汎用機からクライアントサーバ方式にシフトして、システム機器売上は大幅に下落している。というわけで医療 IT 業界の会社や事業部の台所は裕福には程遠い。それでも電子カルテや他のシステムへ多額の開発投資をしながら何とか事業を続けている。

かつてバブルの時代にはいろいろな業界で、毎晩豪遊したとか、飲みすぎて体調を壊したというような話を聞いたが、医療 IT 業界はバブルに縁がなかった。おかげで健康である。

ヒト：医療が好き？

シリーズ冒頭の木村先生のコラムには、この業界の SE は正月も休めず、4 月の法令改正時には徹夜で... という指摘があった。確かにそのとおりである。そのとおりなのだが何故かそのせいで辞めたという人はあまり聞かない。年末は 5 年連続出勤で大掃除をしていないとか（本当は仕事の方が楽なのか？）、正月は病院でコンビニのおせち料理を食べたとか、あの病院での 3 連徹はキツかったとか、大変そうな会話が聞こえる。しかし 10 年たっても飲みながら嬉しそうに言っている。

また不思議と配属希望者もいる。応募動機を聞いてみると、家族や知人が病院でお世話になったからとか、看護師さんのシステムを作ってみたくとか、「あの病院のシステムにかかわった」と跡を残せようとか、社会への貢献という気持ちと、「航空管制システム」などというより身近というのが希望動機のようなのである。ちなみに配属して何年か経つと、しっかり者の看護師さんを奥様にしていたり、子供が生まれてミルクを原価でもらっていたり、緊急の時に病院に便宜を図っていただいたりと、結構役得？もあったりする。

ついでに言うと、実家の商売を継ぎます、もう一度大学に行きますなどの理由で退社した人が、数年たったら、また医療 IT の業界で仕事をしていたりする。数百社が集まるホスピタルショーと呼ばれる展示会などは、まさに同窓会の様相である。この業界の飯は決して美味とは言えないのだが、少し苦味があるのが好みになってしまうようである。かくして苦味から離れられない仲間が増えていく。良薬なのか麻薬なのか... 今後を見守っていきたい。

筆者は NEC に属しながら、保健医療福祉情報システム工業会や日本医療情報学会の活動を行っている。特定企業の一員の立場ではなく、業界の一員として本稿を書かせていただいた。今後の医療 IT 業界におけるヒト、モノ、カネの適正な発展を願っている。

(平成 17 年 6 月 15 日受付)